

◎報告

呼吸器疾患症例における温泉療法の効果
—アンケートを利用して—寺崎佳代, 山本貞枝, 吉尾慶子, 西村伸子,
光延文裕, 谷崎勝朗

岡山大学医学部附属病院三朝医療センター看護部

要旨

呼吸器疾患症例における温泉療法の効果（自覚症状、薬物投与量など）や、有効と思われた温泉療法の種類、終了後の経過（1年後）などについて、気管支喘息102例を対象にアンケート調査を行った。

その結果、温泉療法開始1週間で自覚症状が改善された症例が71.5%、副腎皮質ホルモンの減量が可能であった症例が65.6%、通院後1年間は、入院時に比べ症状が改善されている症例が61.8%、さらに、退院時より改善されている症例が53.9%であった。

これらのことから、当院の温泉療法により症状が改善したことと、体調コントロールを身につけることにより、退院後1年以上経過しても、体調が良好に維持されていることが示唆された。

索引用語：温泉療法，アンケート，呼吸器疾患

温泉療法の種類、1年後の経過などについて検討を加えた。

はじめに

当院で、呼吸器疾患、なかでも気管支喘息、肺気腫、その他の慢性閉塞性呼吸器疾患に対する温泉療法が開始されて、すでに20年余が経過している。

この間、これらの症例に対して、温泉プールでの水中運動、鉱泥湿布療法、ヨードゾル吸入などを中心とした温泉療法が行われ、それなりの臨床効果があがっている。

そこで、この10年間に、当院に入院又は外来通院した呼吸器疾患症例102例を対象にアンケート調査を行い、温泉療法の効果、有効と思われた温

方 法

当院に入院又は、外来通院している気管支喘息患者102例に、郵送によるアンケート調査を行った。

結 果

温泉療法開始1週間で症状が改善されている症例が多く71.5%であった。(図1)

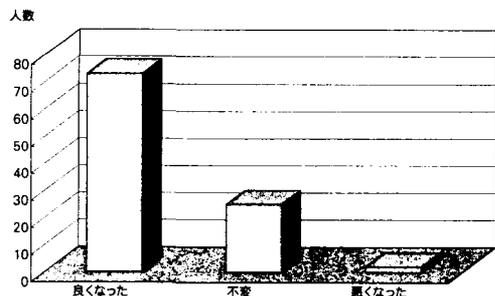


図1 温泉療法開始1週間後の症状

当院で治療して、症状の改善された症例は94.1%と高値を示し、改善された症例の中でも、かなり改善された症例が43.8%，すごく改善された症例が37.5%であり、当院の治療には効果があると感じている症例が多いということが示された。(図2)

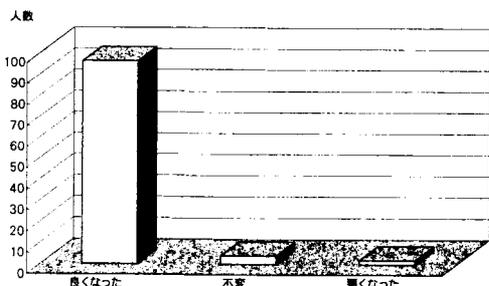


図2 当院で治療して

有効と思われた温泉療法の種類では温泉プール訓練が32.3%で最も高く、ついで、リハビリテーション、散歩、温泉浴、喘息体操、ヨード吸入、熱気浴、鉱泥湿布の順であった。(図3)

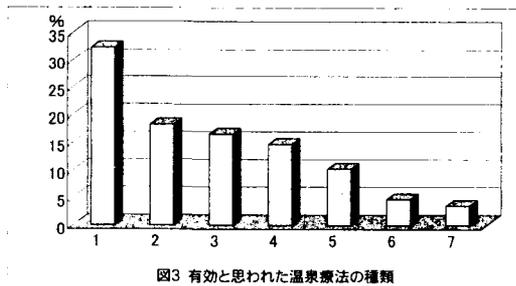


図3 有効と思われた温泉療法の種類

1プール訓練 2リハビリテーション・散歩 3温泉浴 4喘息体操 5ヨード吸入 6熱気浴 7鉱泥湿布 (複数回答)

当院で治療して良かったと思うことは、温泉療

法を始めたことが29.6%をしめ、次に病気や治療についての知識が深まったこと27.5%，同じ病気の患者さんと知り合えたこと21%であった。(図4)

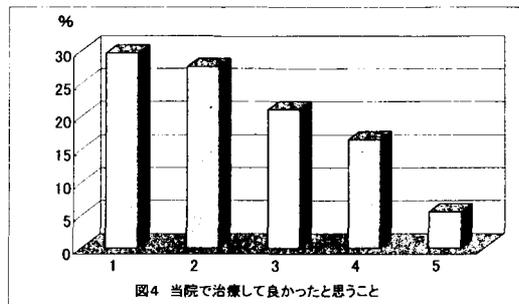


図4 当院で治療して良かったと思うこと

1 温泉療法(プール訓練など)始めた事 2 病気や治療についての知識が深まった 3 同じ病気の患者さんと知り合えたこと 4 症状が良くなったこと 5 温泉が良かったこと (複数回答)

投与薬物の副腎皮質ホルモンの減量が可能であった症例は65.6%であった。(図5)

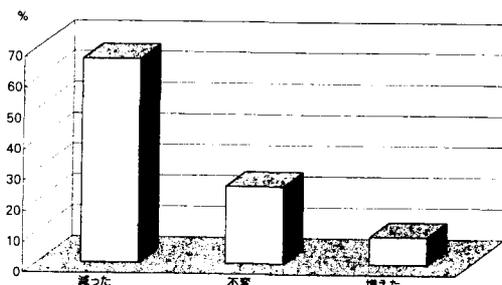


図5 副腎皮質ホルモン投与量の変化

退院後1年間は、入院時に比べ症状が改善されている症例が61.8%，退院時より症状が改善されている症例は53.9%であった。(図6)

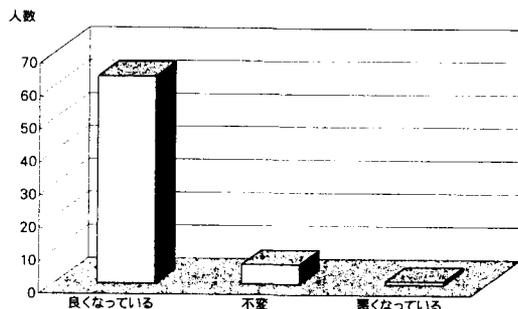


図6 退院後の1年間は入院前と比べて

退院後プール訓練を続けている症例は58%，続けない症例は42%であった。(図7)

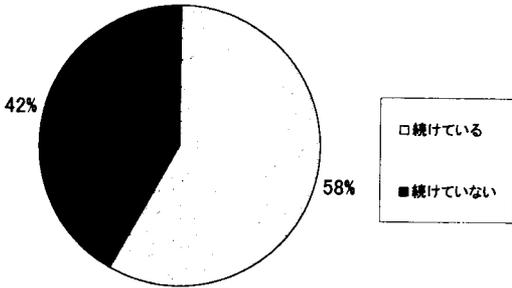


図7 退院後のプール訓練

プール訓練の回数では1~2回/Wが最も多く、1回/2W, 3回/Wの順であった。(図8)

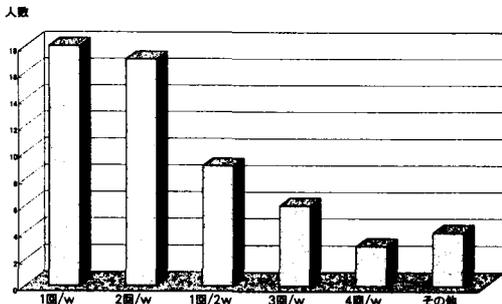


図8 プール訓練の回数

プール訓練を続けている50症例のうち退院後の1年間は、入院前に比べて良くなっている症例62%、変わらない症例4%、悪くなっている症例2%、回答なし32%であった。退院時と比べると良くなっている症例58%、変わらない症例8%、悪くなっている症例6%、回答なし28%であった。(図9)

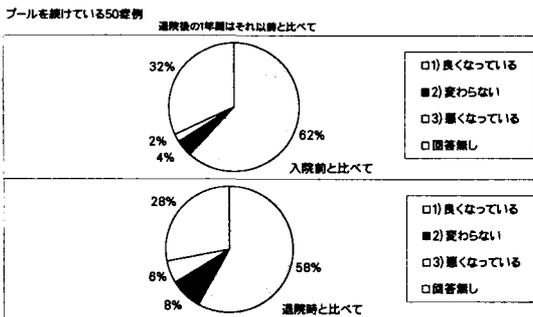


図9

プール訓練を継続していない36症例のうち退院後の1年間は、入院前と比べて良くなっている症例

86%、変わらない症例8%、悪くなっている症例0%、回答なし6%であった。退院時と比べると良くなっている症例69%、変わらない症例17%、悪くなっている症例8%、回答なし6%であった。(図10)

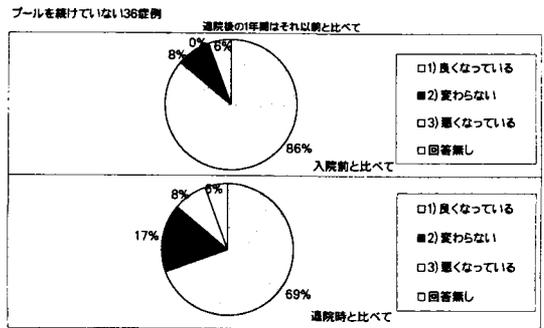


図10

考 察

図①・②で示すように、当院で治療して症状の改善されている症例は94.1%、治療開始1週間で自覚症状が改善された症例は71.5%と当院の治療には、効果があると感じている症例が多いことが示された。

温泉療法の中でも有効と思われたものは、温泉プール訓練が32.3%で最も高く、当院独自の温泉を使った水中運動に対し有効と感じていることが示された。

また、当院で治療して良かったと思うことは、ただ与えられた治療のみをするのではなく、病気や治療についての知識を深め、他の患者さんと知り合い病気に対する情報交換をする中で、薬物療法のみにも頼るのではなく、温泉療法をすることで治療効果を上げていく方法を自らが学んでいることが示された。

退院後、プール訓練を続けている症例は58%、回数では1~2回/Wが最も多く、ついで1回/2W, 3回/Wの順であった。

プール訓練を続けている50症例のうち、退院後の1年間は入院前に比べて良くなっている症例62%、退院後に比べて良くなっている症例58%で、退院後プール訓練を続けることで、体調が良好に

維持されていると思われる。

プール訓練を続けていない症例は42%36症例で、退院後の1年間は入院前に比べて良くなっている症例86%、退院時と比べて良くなっている症例69%であった。

これは、プール訓練を続けている症例と比べ軽症例が多かったため、入院中に症状が改善され、退院後もその症状が続いていることが考えられる。

まとめ

今回のアンケート調査の結果、当院の温泉療法により症状が改善したこと、体調コントロールを身につけることにより、退院後1年以上経過しても体調が良好に維持されていることが示唆された。

しかし、今回の研究では対象症例の年齢、地域分布、疾患別などの背景がとらえられていないため、調査という形でしか現れていない。

今後はこれらのことをふまえ、温泉療法の効果について、さらに研究を深めていきたいと思う。

参考文献

1. 谷崎勝朗 気管支喘息の温泉療法、有効な温泉療法の種類と今後の課題
岡山大学三朝分院研究報告 64：P105～109
1993.
2. 谷崎勝朗 喘息の温泉療法 近代文藝社 1994.
3. 谷崎勝朗，御船尚志，光延文裕，他 慢性呼吸器の治療における温泉療法の位置づけ，最近5年間の入院症例520例を対象にアンケート
岡山大学三朝分院研究報告 691-7 1997.
4. 西村伸子，他 アンケート調査による温泉療法の評価 遠隔地からの入院患者を対象に
岡山大学三朝分院研究報告 71：P84～88 2000.